

総合的な取り組み推進のための 新たな理念と枠組み

「住宅・建築物のエネルギー消費性能の実態等に関する研究会」
まとめの一部として

2018年3月27日(火)

岩村 和夫

東京都市大学名誉教授
香港珠海学院客員教授
(株)岩村アトリエ代表取締役

2018/3/26

01

新たな環境主義の枠組みの理念

(Dr. Prof. Raymond Cole, Dec. 2017)

これまで、いわゆる「環境主義 (Environmentalism)」には、環境を守ることへの関心の増大とともに、その実現のための行動規範として様々な枠組みが与えられてきた。

しかし、それに対する批判の多くは、そのメッセージがセンセーショナルに過ぎ、環境問題をその他のより緊急性の高い社会的関心から離れた文脈に置いてしまったこと、そして、その責任と方策の所在を閉ざされた運動や専門性の中に限定してしまったこと、に言及している。

世界中で気候や政治に関する不確実性が増大しつつある現在、そうした「環境主義」とは質的に異なる、新たな文脈の形成が求められている。

2018/3/26

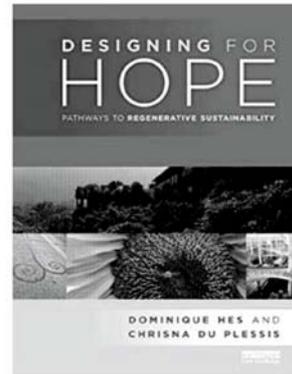
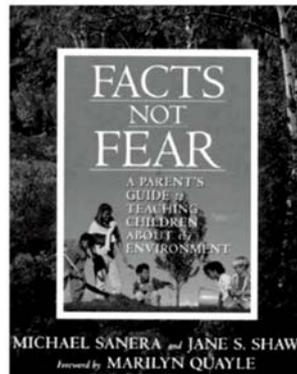
© Dr. Prof. Raymond Cole 02

建築デザインにおける「環境主義」は、非再生可能資源の使用および汚染物質の排出を「削減」することを、戦略的な目標の核にしてきた。

例えば、「グリーン建築」デザインとして広く標榜される内容は、その前向きな効果や成果を強調することではなかった。

むしろ、専ら建築環境が健康に及ぼす悪影響を減らすことや、エコシステムと一体化させるべきであるといった側面に、焦点が当てられてきた。

このような取り組みが重要かつ必要なことはもちろんだが、広く社会に訴えるには、それだけでは不十分であるという認識が、近年ますます高まっている。



2018/3/26

© Dr. Prof. Raymond Cole 03

結局のところ、私たちは建築行為を自然システムの破壊や、地球上の資源枯渇を招くものとして捉えるだけではなく、むしろ、豊かで、レジリエントな社会や世界の創造に寄与し、それを支援するものとして捉えることになるだろう。

このような目的を達成するには、ビジョンとその価値が、ポジティブな変化を導く上で不可欠なものであることを明確にする必要がある。

そしてとりわけ、それらが広範囲な一般社会といかにコミュニケーションできるか、にかかっている。

(英文和訳: 岩村和夫)

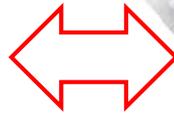
**警告、悲観主義、憂鬱な未来の姿は、
一般の人々の関心や取組への積極的な動機とはならない。**

2018/3/26

© Dr. Prof. Raymond Cole 04

現在のフットプリントのアプローチは、個人、組織、或いは国に対するネガティブな影響に焦点が当てられる

それに対し、ハンドプリントは、社会的、経済的次元を含むポジティブな持続可能な影響を特定し、測り、評価することを意味する



Ecological Footprint

Handprint



2018/3/26

The Sustainable and Health Initiative for Net Positive Enterprise - SHINE – project at Harvard's School of Public Health

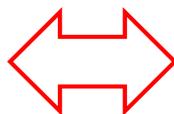
05

ネガティブな影響を減らすこと

- 資源の浪費
- 廃棄物の発生
- 排出
- 社会的影響
- その他

ポジティブな影響を増やすこと

- 生活の質
- 持続可能性の認識
- 生態系の質
- 社会的利益
- その他



Decrease Footprint
フットプリントを減らす

Increase Handprint
ハンドプリントを増やす

2018/3/26

The Sustainable and Health Initiative for Net Positive Enterprise - SHINE – project at Harvard's School of Public Health

06

気候変動：ストレス要因群と、それらに対する対応

Climate Change: Stressors & Responses

Rising Sea level Increased Rainfall Rising Temperatures Intense Storms

Stressors

ストレス要因群



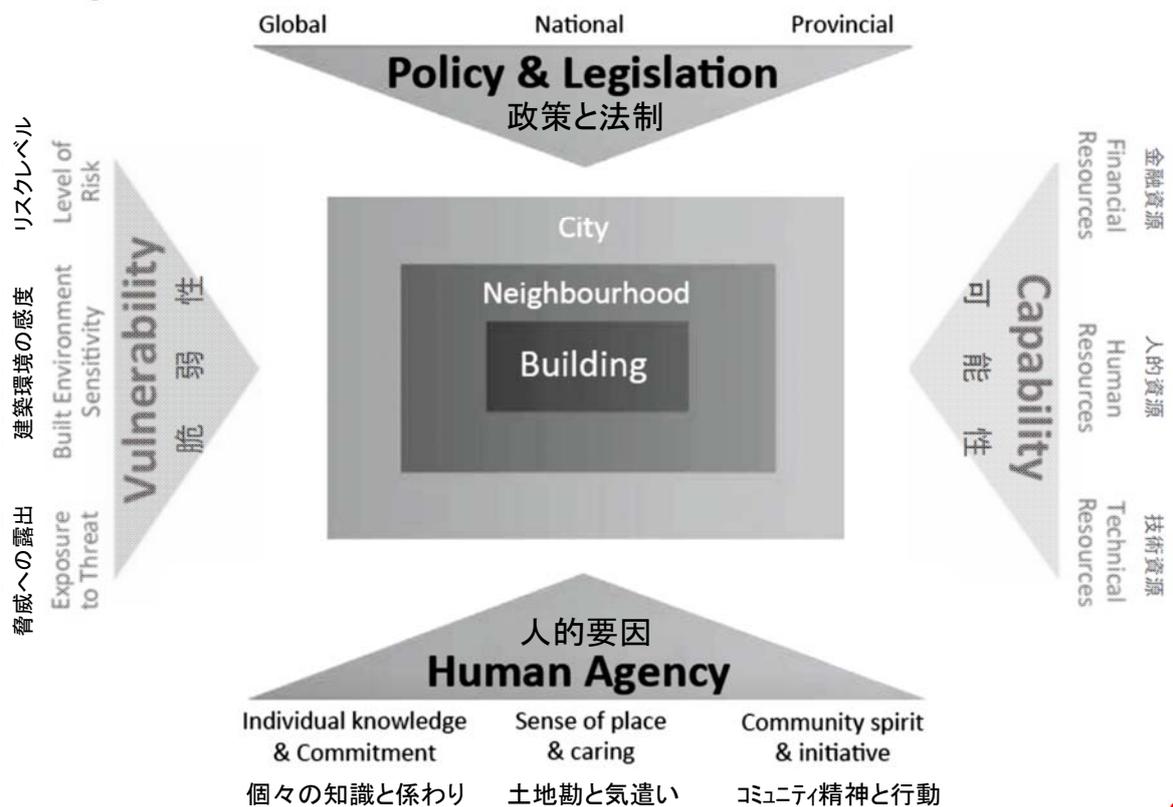
対応策群



2018/3/26

© Dr. Prof. Raymond Cole 07

対応策 Responses



2018/3/26

08

トップダウンとボトムアップの関係性-1

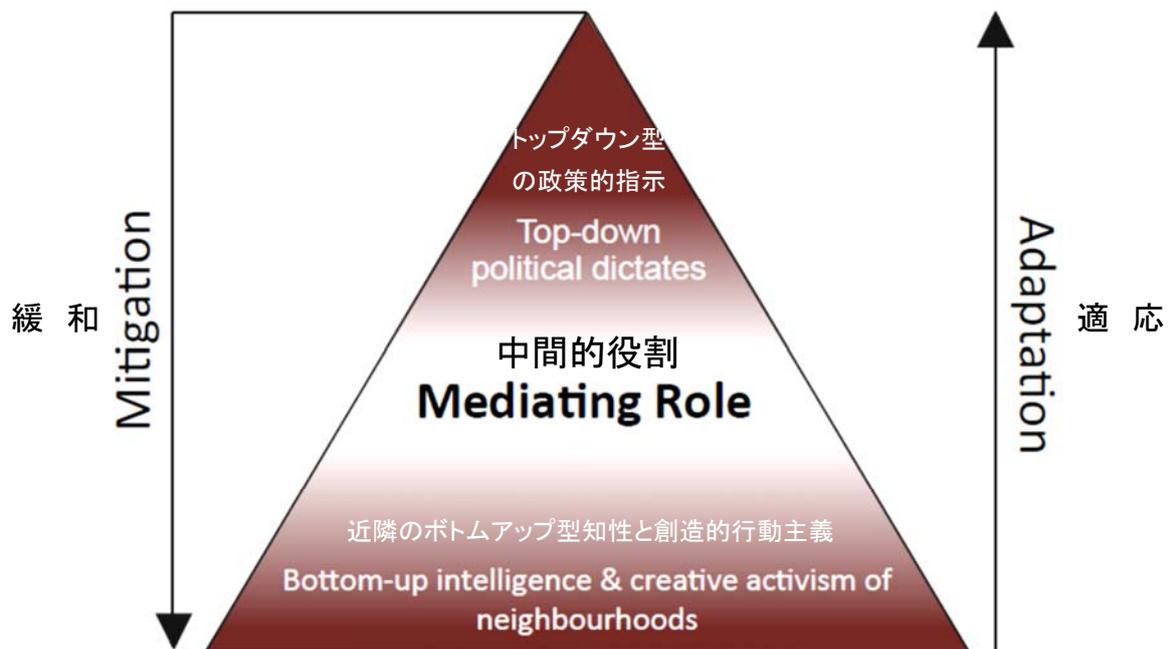


地域ごとに底辺を形成する多様なステークホルダー

2018/3/26

© Dr. Prof. Raymond Cole 09

トップダウンとボトムアップの関係性-2



省エネ基準の義務化は、その象徴的事例の一つ

2018/3/26

© Dr. Prof. Raymond Cole 10